

船員の仕事とそのやりがいを中学生に紹介

～ 荒川区立第三中学校「校内ハローワーク」への協力 ～

当協会は、2008年7月に「人材確保タスクフォース」を設置し、船員教育機関等と連携しつつ優秀な日本人船員（海技者）確保のための広報活動を行っている。

今般、その一環として、荒川区立第三中学校（東京都）の「校内ハローワーク」に講師として商船三井 大森彰船長を派遣した。

（写真は講演風景）



荒川区立第三中学校（荒川三中）の校内ハローワークは、進路・生き方学習の位置付けで多様な職業の方々（例年 30 職種程度）を講師に招き、生徒に「自分の生き方」について考えるきっかけを与えることを狙いとした行事で、平成 13 年度から例年開催されている。



電子黒板を使って説明する大森船長

今年度の校内ハローワークは 10 月 4 日（土）に開催され、船員職の他、新聞記者、アナウンサー、警察官、看護師、パティシエ、銀行員等、広い範囲に亘る 32 職種の講師が招かれ、全校生約 370 名と近隣の小学生がそれぞれの講座に分かれて参加した。なお、当協会には 2011 年から講師招請があり、今回 4 回目である。

大森船長の講座には 30 名程が参加、同船長から商船の大きさや種類、船員の仕事、船内生活に関する紹介、船員という職業のやりがいについての説明があり、普段聞くことの出来ない話に生徒たちは熱心に耳を傾けていた。また講座では、生徒から「自然災害の時に家族の元に戻れますか」、「船酔いはしませんか」といった質問が寄せられ、大森船長が一つ一つの質問に丁寧に対応した。

各講座終了後には、生徒代表からお礼の挨拶があり、校内ハローワークは終了した。



各講座終了後には体育館で生徒代表から講師にお礼の挨拶があった